

2025年度 看護学科 シラバス

■ 目次

学修成果(到達目標)		4
カリキュラムマップ		5
カリキュラムツリー		6
3年生 年間予定表		8
3年生 シラバス		11

開講科目	頁	開講科目	頁
看護管理論・国際看護	11	小児看護学実習	16
看護研究Ⅱ	12	母性看護学実習	17
地域・在宅看護論実習Ⅱ	13	精神看護学実習	18
成人看護学実習	14	統合実習	19
老年看護学実習	15		

ナンバリング		22
教員一覧		26
実務経験を有する教員一覧		27
オフィスアワー・成績評価		28

看護学科

3年生

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

学修成果（到達目標）

- 1 **【基礎力】** 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
 - ①専門教育の導入・基礎として確かな基礎学力を育て、統合できる能力を身につける。
 - ②教養の涵養によって、異なる文化や社会を尊重していく態度を身につける。
 - ③人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践の基盤となる能力を身につける。
 - ④科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を身につける。
 - ⑤看護を取り巻く社会の動向や特性を知り、看護職の役割と責任について理解する能力を身につける。

- 2 **【実践力】** 各分野の実際の場合面に対応できる力
 - ①科学的根拠に基づいた臨床判断能力を身につける。
 - ②多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて対象のニーズをとらえ、看護を実践する能力を身につける。
 - ③安全なケア環境を提供する能力を身につける。
 - ④人々の尊厳と権利を擁護し意思決定を支援する能力を身につける。

- 3 **【人間関係力】** 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
 - ①援助関係を形成する能力（個人・家族・集団・地域との援助関係・信頼関係、協働関係）を身につける。
 - ②保健・医療・福祉チームにおいて多職種との連携・協働する能力を身につける。
 - ③ケアへ参画する能力を身につける。

- 4 **【生涯学習力】** 生涯にわたって学び、成長できる力
 - ①看護の専門職として価値と専門性を発展させる能力を養う。
 - ②生涯にわたり研鑽し続ける能力を養う。

- 5 **【地域理解力】** 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
 - ①人々の暮らしに影響する地域の特性に関連する文化や社会的背景を理解する能力を養う。
 - ②人々の暮らしを取り巻く環境と健康の関連について、現状と課題を理解する能力を養う。
 - ③災害看護を理解する能力を養う。
 - ④地域包括ケアシステムにおける看護活動の在り方について理解する能力を養う。

科目区分		授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果																				単位数											
				1年										2年										3年										必修	選択
				前期	後期	1	2	3	4	5	前期	後期	1	2	3	4	5	前期	後期	1	2	3	4	5											
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●																			1										
		英語	15	○		●																			1										
		哲学入門	8		○	●																			1										
	人間と社会	現代の社会	15	○		●																			2										
		法律入門	15								○		●												2										
		生涯学習論	8								○				●										1										
		心理学概論	10		○	●																			1										
		家族社会学	8		○	●																			1										
	人間と科学	情報処理	15	○		●																			1										
自然科学入門		15	○		●																			1											
数理リテラシー		10	○		●																			1											
健康スポーツ科学		8								○		●												1											
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	8	○		●																			1										
		人体構造と機能Ⅱ	10	○		●																			1										
		人体構造と機能Ⅲ	15	○		●																			1										
		人体構造と機能Ⅳ	15		○	●																			1										
		生化学	10	○		●																			1										
		微生物学	15	○		●																			1										
		栄養学	8		○	●																			1										
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	8		○	●																			1										
		病態治療学Ⅰ（検査・治療）	10		○	●																			1										
		病態治療学Ⅱ（循環器）	10		○	●																			1										
		病態治療学Ⅲ（消化器）	10		○	●																			1										
		病態治療学Ⅳ（内分泌・泌尿・生殖器）	10		○	●																			1										
		病態治療学Ⅴ（運動器・中枢・末梢神経）	10								○		●												1										
		病態治療学Ⅵ（血液・造血器・免疫）	10								○		●												1										
		病態治療学Ⅶ（呼吸器・感覚器）	10								○		●												1										
		看護薬理学	15		○	●																			1										
		健康支援と社会保障制度	生命科学と医療倫理	10	○		●																			1									
	人間関係論		8	○				●																	1										
	保健行動学		8	○		●																			1										
	公衆衛生学		8									○		●											1										
	保健医療福祉サービス論		8									○		●											1										
	基礎看護学	チーム医療論	10									○				●									1										
		看護学概論	15	○		●																			1										
		看護倫理	8		○	●																			1										
		基礎看護技術Ⅰ	10	○		●	●	●	●																1										
		基礎看護技術Ⅱ	30	○		●	●	●	●																2										
		基礎看護技術Ⅲ	10		○	●			●																1										
	地域・在宅看護論	基礎看護技術Ⅳ	30		○	●	●		●																2										
		地域・在宅看護概論Ⅰ	8		○	●				●															1										
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	15								○		●					●							2										
		地域・在宅看護概論Ⅱ	8									○		●					●						1										
	領域横断看護	地域・在宅看護援助論Ⅱ	23									○		●	●				●						2										
		看護展開論Ⅰ	8									○		●											1										
		看護展開論Ⅱ	23									○		●	●										2										
		看護展開論Ⅲ	23									○		●	●			●							2										
		健康状態別看護Ⅰ	8									○		●											1										
	成人看護学	健康状態別看護Ⅱ	15									○		●	●										2										
		健康状態別看護Ⅲ	15									○		●	●										1										
		成人看護学概論	8		○	●																			1										
	老年看護学	成人看護学援助論Ⅰ	30								○		●	●											2										
		成人看護学援助論Ⅱ	15									○		●	●										1										
		老年看護学概論	8		○	●																			1										
	小児看護学	老年看護学援助論Ⅰ	10								○		●												1										
		老年看護学援助論Ⅱ	15									○		●	●										1										
		小児看護学概論	8		○	●																			1										
	母性看護学	小児看護学援助論Ⅰ	10								○		●												1										
小児看護学援助論Ⅱ		15									○		●	●										1											
母性看護学概論		8		○	●																			1											
精神看護学	母性看護学援助論Ⅰ	10								○		●												1											
	母性看護学援助論Ⅱ	15									○		●	●										1											
	精神看護学概論	8		○	●			●																1											
看護の統合と実践	精神看護学援助論Ⅰ	10								○		●		●	●									1											
	精神看護学援助論Ⅱ	15									○		●		●	●								1											
	医療安全管理論	8									○		●		●	●								1											
臨地実習	災害看護	15									○		●	●			●							1											
	看護管理論・国際看護	8															○		●			●		1											
	看護研究Ⅰ	8									○		●											1											
	看護研究Ⅱ	8																○			●	●		1											
	基礎看護学実習Ⅰ	集中	○			●	●	●																1											
専門教育分野	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅱ	集中		○		●	●	●																1										
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	集中									○		●	●	●	●								1										
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	集中															○		●	●	●	●		2										
		領域横断看護実習	集中								○			●	●	●									3										
		成人看護学実習	集中																○		●	●	●	●	3										
		老年看護学実習	集中																○		●	●	●	●	3										
		小児看護学実習	集中																○		●	●	●	●	2										
		母性看護学実習	集中																○		●	●	●	●	2										
		精神看護学実習	集中																	○		●	●	●	2										
統合実習	集中																		○	●	●	●	3												
総計（卒業要件103単位）																								103	0										

[illegible]

2025年度 看護学科3年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2	オリエンテーション	3	(入学式)	4	1	5	
	6		7	1	8	1	9	健康診断 1	10	1	11	2	12	
	13		14	2	15	2	16	2	17	2	18	3	19	
	20		21	3	22	3	23	3	24	3	25	4	26	
	27		28	4	29		30	4	1	4	2	領域別実習	3	
5月	4		5		6		7	領域別実習	8	領域別実習	9	領域別実習	10	
	11		12	5 領域別実習	13	領域別実習	14	領域別実習	15	領域別実習	16	領域別実習	17	
	18		19	6 領域別実習	20	領域別実習	21	領域別実習	22	領域別実習	23	領域別実習	24	
	25		26	7 領域別実習	27	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	領域別実習	31	
6月	1		2	8 領域別実習	3	領域別実習	4	領域別実習	5	領域別実習	6	領域別実習	7	
	8		9	9 領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	領域別実習	14	
	15		16	10 領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20	領域別実習	21	
	22		23	11 領域別実習	24	領域別実習	25	領域別実習	26	領域別実習	27	領域別実習	28	
	29		30	12 領域別実習	1	領域別実習	2	領域別実習	3	領域別実習	4	領域別実習	5	
7月	6		7	13 領域別実習	8	領域別実習	9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	
	13		14	14 領域別実習	15	領域別実習	16	領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	
	20		21		22	領域別実習	23	領域別実習	24	領域別実習	25	領域別実習	26	(保護者会)
	27		28	15 領域別実習	29	領域別実習	30	領域別実習	31	領域別実習	1	領域別実習	2	
8月	3		4	領域別実習	5	領域別実習	6	領域別実習	7	領域別実習	8	領域別実習	9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	領域別実習	19	領域別実習	20	領域別実習	21	領域別実習	22	領域別実習	23	
	24		25	領域別実習	26	領域別実習	27	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	
	31		1		2		3		4		5		6	
9月	7		8	領域別実習	9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	
	14		15		16	領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20	
	21		22	領域別実習	23		24	領域別実習	25	領域別実習	26	領域別実習	27	
	28		29	領域別実習	30	領域別実習								

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 看護学科3年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1 領域別実習	2 領域別実習	3 領域別実習	4
	5	6 領域別実習	7 領域別実習	8 領域別実習	9 領域別実習	10 領域別実習	11
	12	13	14 領域別実習	15 領域別実習	16 領域別実習	17 領域別実習	18
	19	20 領域別実習	21 領域別実習	22 領域別実習	23 領域別実習	24 領域別実習	25 せいよう祭
	26	27 領域別実習	28 領域別実習	29 領域別実習	30 領域別実習	31 領域別実習	1
11月	2	3	4 領域別実習	5 領域別実習	6 領域別実習	7 領域別実習	8
	9	10	11	12 看護研究発表会	13	14	15
	16	17	18	19	20	21 統合実習	22
	23	24	25 統合実習	26 統合実習	27 統合実習	28 統合実習	29
	30	1 統合実習	2 統合実習	3 統合実習	4 統合実習	5 統合実習	6
12月	7	8 統合実習	9 統合実習	10 統合実習	11 統合実習	12 統合実習	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
1月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17 卒業式	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-03				
	●			●						
科目名	看護管理論・国際看護				単位 認定者	阿部 春美		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	40 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護管理論は、組織の看護サービスの質を向上させる活動体制、看護管理の対象とその活用、労働者の果たすべき責任、労働者を守る体制、チーム医療及び他職種との協働、看護組織の業務を行う一員としての役割や責任について学び、看護管理の基礎的知識を身につける。国際看護は、国境を超えて広域的に発生する健康問題の現状や国際社会・多様な文化における看護職の役割について学び、国際看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 看護管理の本質と看護管理の過程について説明できる 2. 資源としての人材、物品、予算、時間、情報のマネジメントについて説明できる 3. 看護管理に関わる法律・制度とリーダーシップ、メンバーシップについて説明できる 4. 国際協力の仕組みと看護活動の展開を述べることができる									
学修者への期待等	1. 看護・医療に関する社会の動きについて関心を向けてほしい。 2. 統合実習の基礎となる科目である。問題意識を持って能動的に学ぶ姿勢を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	看護管理を学ぶ意義 看護の質保証と資源管理					【事後】小テスト、授業後の学び（概ね30分）				
2	組織とマネジメント【ディスカッション】					【事後】小テスト（概ね40分）				
3	看護サービスのマネジメント					【事前】就職/進学希望施設の組織体制・理念について、調べてくること（概ね30分） 【事後】小テスト（概ね30分）				
4	日本の医療制度と看護に関わる法律制度					【事後】小テスト（概ね40分）				
5	看護職における人材育成【ディスカッション】 キャリアデザインと働き方のマネジメント					【事後】レポート課題 キャリアイメージ「なりたい私」についてまとめる（概ね1時間）				
6	チーム医療、他職種との共同 看護におけるリーダーシップ・メンバーシップ 【ディスカッション】					【事後】授業後の学び（概ね1時間）				
7	安全管理のしくみ（組織体制、チーム医療におけるコミュニケーション）【事例展開によるグループワーク】					【事前】既習科目の医療安全管理論を復習してくること				
8	国際看護（国際看護学の概要、看護の国際協力の仕組みと看護活動）					【事後】小テスト（概ね40分）				
教科書	『系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理』 上泉和子他著、医学書院 『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学』 浦田喜久子他著、医学書院									
参考文献	授業内で適宜紹介します。									
備考	授業内課題は小テスト（10%）、事後課題レポート（30%）で評価する。 授業内課題（小テスト）については、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

病院看護管理者、認定看護管理者、医療安全管理者の経験を生かして、看護のしくみを理解できるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-05				
		●		●						
科目名	看護研究Ⅱ				単位認定者	小林 淳子		評価の方法	試験 (レポート)	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	演習	授業回数	8 回			
授業の概要	実際にケースレポートや論文作成を通して、看護の質向上のために自らの看護実践を省察し研鑽し続けるために看護研究を行う基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 臨地実習で学んだ看護実践を客観的に振り返り、文献を活用しながら自己の看護実践の効果と課題を明確にしてケースレポートを作成することができる。 2. ケースレポートに基づき口頭発表用のパワーポイントを作成し発表することができる。									
学修者への期待等	「看護研究Ⅰ」の学修内容を復習して臨んで下さい。臨地実習における自身の看護実践の効果と課題を考察し、看護実践能力向上につながるケースレポートとなることを期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	看護研究Ⅱ ガイダンス ケースレポートの意義・作成のプロセス				教科書第10章Aを読みケースレポートの進め方について予習する。（約30分）				小林 淳子	
2	ケースレポート：事例選択・テーマ検討				【事前】前期領域別看護実習の受け持ち事例を振り返り、選択した事例の実習記録を確認する。（約30分） 【事後】ケースレポートテーマ決定記録を作成し期日まで提出する。（約1時間）				小林 淳子	
3	ケースレポート：テーマ決定				【事前】選択した事例の実習記録を確認する。（約30分） 【事後】指導担当教員から指導を受けケースレポートテーマ決定記録を完成させる。（約1時間）				小林 淳子 備考欄参照	
4	ケースレポート作成 序論・事例紹介・看護上の問題・看護目標				【事前】教科書第10章を読みケースレポートの進め方について予習する。（約30分） 【事後】指導担当教員から指導を受けケースレポートを作成する。（約1時間）				小林 淳子 備考欄参照	
5	ケースレポート作成 看護の実際・考察				【事前】教科書第10章を読みケースレポートの進め方について予習する。（約30分） 【事後】指導担当教員から指導を受けケースレポートを作成する。（約1時間）				小林 淳子 備考欄参照	
6	ケースレポート作成 考察・結論・引用文献				【事前】教科書第10章を読みケースレポートの進め方について予習する。（約30分） 【事後】指導担当教員から指導を受けてケースレポートを完成させ期限まで提する。（約2時間）				小林 淳子 備考欄参照	
7	プレゼンテーション：口頭発表の方法				【事前】提出したケースレポートの内容を確認する。（約30分） 【事後】本授業内容を復習し、プレゼンテーション用のpptを完成させ期限まで提出する。（約2時間）				小林 淳子 坂村 佐知 備考欄参照	
8	プレゼンテーション：口頭発表				作成したpptによりプレゼンテーションを練習する。（約1時間）				小林 淳子 坂村 佐知	
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他著、医学書院									
参考文献	『文献レビューのきほん』大木秀一著、医歯薬出版株式会社 『看護にいかす文献検索入門：学び続けるための情報探索スキル』富田美加他著、中央法規									
備考	・受講態度は発表会参加状況（10％）で評価する。 ・指導担当教員からフィードバックを受けてケースレポートを作成し発表会でプレゼンテーションを実施する。 ・指導担当教員： 桑田恵美子、高橋由美、阿部春美、木下美佐子、佐藤幸子、齋藤美華、田辺圭子、佐藤富美子、佐藤由記子、岡崎優子、佐藤理恵、武田美奈子、阿部幹佳、真溪淳子、二口尚美、竹田理恵、伊藤茉莉子、佐藤清湖、泉田さとみ、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、加藤真理子、手塚有希子、小倉真紀									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健師（自治体等に5年以上勤務）としての実務経験を生かし、看護実践に基づくケースレポート作成について理解が深められるよう教授する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング NS-2-CNP-04				
		●	●	●	●					
科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ				単位 認定者	高橋 由美		評価の 方法	実習目標達成 度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	80 時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	地域で療養する人々とその家族のニーズをとらえ、地域包括ケアシステムにおける看護活動など多様な場に応じた看護活動の実際について学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける。									
学修者への 期待等	地域で療養する様々な対象や多様な場に応じた看護活動の実際を学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける実習です。既修内容を振り返り、実習の目的を意識して主体的に臨みましょう。									
授業計画						準備学修				
Ⅰ．実習期間：令和7年5月12日（月）～10月31日（金） 1グループ2週間 Ⅱ．実習施設：訪問看護ステーション 看護小規模多機能型居宅介護 障害児通所支援施設 Ⅲ．実習目的：地域で療養している人々とその家族に対し、 既修内容を統合した地域・在宅看護実践能力を養う Ⅳ．実習目標 1. 地域で療養する人々とその家族を理解する 2. 地域で療養する人々とその家族への看護支援の実際を学ぶ 3. 多様な場に応じた看護活動や多職種連携の実際について学ぶ 4. 実習を通して、在宅療養者・児やその家族のセルフケア能力 及びQOLを高めるために必要な支援について考察する Ⅴ．実習計画 1. 学内実習 1) 実習オリエンテーション 2) 看護技術学習 3) 看護過程学習 4) 実習まとめ 2. 臨地実習 1) 訪問看護ステーション：指導者との同行訪問を通して 在宅看護の実際を学ぶ 2) 看護小規模多機能型居宅介護：施設の特性や多職種連携の 実際を学ぶ 3) 障害児通所支援施設（放課後等デイサービス・児童発達支援） ：施設の特性や多職種連携の実際を学ぶ						【事前】 実習オリエンテーション時に実習の キーワードに関する事前課題を課する 既修内容を振り返りまとめておく （4時間程度）				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①：地域療養を支えるケア』 臺有桂他編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②：在宅療養を支える技術』 臺有桂他編、MCメディカ出版									
参考文献	『写真でわかる訪問看護』 押川真喜子監修、インターメディカ									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照すること ＜担当者＞ 専任教員：高橋由美、小林淳子、真溪淳子、東海林美幸、手塚有希子 非常勤講師：江口美知子、赤間美恵子 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師(病院等に5年以上勤務)として、さらに地域・在宅看護の実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びの統合を支援する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-06				
		●	●	●	●					
科目名	成人看護学実習				単位認定者	阿部 春美		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位			
						授業時間数	120 時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	手術や急性状態にある患者・家族を多面的に理解し対象のニーズを捉え、身体侵襲に伴う変化への対応と心身の回復および社会復帰への適応を支援する看護の役割を学び、成人看護の実践能力を身につける。									
学修者への期待等	既修学修科目で積み重ねた学修を振り返り、目的・目標を意識しながら実習に臨むこと。									
授業計画							準備学修			
I. 実習期間：令和7年5月2日（金）～11月7日（金）1グループ:3週間 II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、東北医科薬科大学病院、東北大学病院 III. 実習目的：健康問題や治療によりストレス・危機状況にある成人患者・家族に対し、成人看護学での既修内容を統合した看護実践能力を育成する。 IV. 実習目標 1. 成人期にある対象の看護過程が展開できる。 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。 ※主に外科的治療を受ける患者、身体侵襲が大きい検査等を受ける患者、慢性疾患の急性増悪の患者、呼吸循環状態が変化しやすい患者の看護について学修する。 V. 実習計画 1. 学内実習 1) 成人看護学実習オリエンテーション 2) 看護過程学習 3) 看護技術学習：実技、グループワーク、動画視聴を活用した自主学習支援 2. 臨地実習 1) 学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護を実践する。 2) 実習目標到達に向けて、受け持ち患者の看護の方向性を把握し実施した援助を振り返るために、テーマを決めてカンファレンスを実施する。 3) 受け持ち患者だけではなく、チームメンバーの受け持ち患者についても情報を共有しながら学びを深める。							【事前】 1. 成人看護学実習 実習目標と課題（記録様式Ⅰ）の作成（1時間） 2. 文献学習 ①実習病棟の診療科に関する学修（解剖生理、疾患、検査、治療、看護など）（2時間） ②手術前患者の看護、術後の回復過程を促す看護、麻酔の種類と副作用について学修する（2時間） 3. 技術学習 成人患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術、また、診療科特有の看護技術について学修する（2時間） 4. 該当診療科の紙上事例の看護過程の展開（3時間） 5. 看護技術到達度の評価（30分）			
教科書	『看護データブック』新井治子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂									
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 佐藤富美子 阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀 非常勤講師 大石慶子、松田郷子 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

成人領域の臨床経験のある教員が実習を担当する。手術または急性期にある成人とその家族の特徴を理解させ、個別的状況に応じた健康回復に必要な看護を教授する。

学修成果						科目ナンバリング NS-2-CNP-07	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護師として高齢者看護の実務経験をもとに、高齢者とその家族に対して老年看護の役割について理解が深められるよう指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●	●	●	NS-2-CNP-08				
科目名	小児看護学実習				単位 認定者	武田 美奈子		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	80 時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	発達段階を踏まえ、人権を尊重した関わりができる態度を養うために、健康な小児や健康障がいを持つ小児およびその家族への看護の役割について学び、小児看護の実践能力を身につける。									
学修者への期待等	実習前に小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し、健康な子ども像・健康障がいをもつ子ども像を描き、必要な看護について学修し臨むこと。 保育所・外来・病棟実習と全てつながりのある実習なので、1つ1つ目標を意識した学びを積み重ねて欲しい。自己の体調管理にも十分努めること。									
授業計画						準備学修				
Ⅰ. 実習期間：令和7年5月19日(月)～10月24日(金) 1グループ：2週間 Ⅱ. 実習施設：泉チェリーこども園、泉第2チェリーこども園、 西多賀チェリーこども園 宮城県立こども病院、仙台市立病院、仙台医療センター 光ヶ丘スペルマン病院、JR仙台病院 Ⅲ. 実習目的：成長発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障がいの有無にかかわらず、よりよい成長発達をとげるための看護を実践する能力を養う。 Ⅳ. 実習目標 1. 子どもの特性の理解に努め、人権を尊重した関わりができる。 2. 子どもの発達段階や健康状態に合わせた看護を考えることができる。 3. 子どもやその家族とコミュニケーションを図り、看護援助が実践できる。 Ⅴ. 実習計画 1. 学内実習 1) 実習全体オリエンテーション 2) 看護過程学習 3) 看護技術学習 2. 臨地実習 1) 保育所実習 2) 外来実習 3) 病棟実習						【事前】 実習開始前に実習要項を十分読み、参加する(30分程度) 保育所・外来：抱っこ、おむつ交換、更衣・授乳・身体計測について復習する(30分程度) 保育所：子どもの成長発達について身体的・心理的・社会的側面から復習する(1時間程度) 外来：小児外来の特徴、外来看護の役割、外来で行われる診療・検査・処置・健康診査・予防接種等について復習する(1時間程度) 病棟：受け持ち患児の発達段階と疾患に関する病態・検査・治療・看護について学修する(2時間程度) 受け持ち患児の看護に必要な看護技術を学修する(1時間程度)				
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子他編、中央法規 『発達段階からみた 小児看護過程』石黒彩子他編、医学書院 『写真でわかる小児看護技術』山元恵子監、インターメディカ 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編、医学書院									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 学内カンファレンス・記録提出については教員の指示に従う 担当者：専任教員 武田美奈子、岡崎草代夏 非常勤講師 鹿野ひとみ、高橋あつ子、大石慶子、他1名 工藤俊平(実習オリエンテーション) ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業は、学修した小児看護の知識・技術・態度を実際に対象に合わせ実践する科目である。そのため看護師として小児看護領域の臨床実務経験を活かし、実践に即した内容を教授する。

学修成果						科目ナンバリング										
1 基礎力						2 実践力		3 人間関係力		4 生涯学習力		5 地域理解力		NS-2-CNP-09		
						●		●		●		●				
科目名		母性看護学実習						単位 認定者		佐藤 理恵		評価の方法	実習目標達成度		100	%
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修		3年	開講時期	通年		単位数	2 単位							
						授業形態	実習		授業時間数	80 時間						
					授業回数		集中									
授業の概要		多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえ、母子とその家族のニーズをとらえ妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の心身の変化を理解し看護の役割について学び、母性看護の実践能力を身につける。														
学修者への期待等		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を順調に経過するためには、看護者の的確な観察や習熟した看護技術の提供が必要とされる。母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱを復習し、知識と技術の再確認をして欲しい。また、日頃接する機会が少ない妊婦・産婦・褥婦・新生児を対象とするため、看護実践の機会を大切に積極的に実習に臨んで欲しい。														
授業計画												準備学修				
Ⅰ．実習期間：令和7年5月2日（金）～10月31日（金） 1グループ：2週間																
Ⅱ．実習施設：坂総合病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、東北公済病院、松島病院、のびすく仙台																
Ⅲ．実習目的：妊娠・分娩・産褥・新生児期の心身の変化を理解し、対象に必要な看護を実践する能力を養う。																
Ⅳ．実習目標																
1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的変化、心理・社会的変化を理解し、個別的な看護アセスメントを行い必要な看護ニーズを説明できる。																
2. 看護過程を通して、母性看護の対象を理解し、対象に必要なセルフケアを中心とした看護支援を実践することができる。																
3. 母子保健に係る法規・制度を理解し、対象者に必要な社会資源の活用方法を説明できる。																
4. 看護実践を通して、母子保健・医療チームの一員としての役割を説明できる。																
5. 看護学生として責任ある行動を取り、主体的な実習態度である。																
Ⅴ．実習計画																
1. 学内実習																
1) 看護過程学習																
2) 看護技術学習																
2. 臨地実習																
1) 病院実習																
(1)機能別実習（産科外来・分娩室・褥室・新生児室での看護ケアの実際を学ぶ）																
(2)受け持ち実習																
(1組の母子を受け持ち、個別的な看護過程を展開する)																
2) 母子支援施設																
教科書		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論』森恵美他著、医学書院														
参考文献		『病気がみえるvol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図』佐世正勝他編、医学書院 『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』太田操編、医歯薬出版 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編、医学書院														
備考		詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者 専任教員：田辺圭子、佐藤理恵、坂村佐知 非常勤講師：畑中晶子 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である														

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

助産師（病院等5年以上勤務）としての実務経験を生かし、学修した母性看護の知識・技術を実践できるよう教授する。

学修成果						科目ナンバリング	
1基礎力2実践力3人間関係力4生涯学習力5地域理解力						NS-2-CNP-10	
科目名	精神看護学実習				単位認定者	阿部 幹佳	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間
						授業回数	集中
授業の概要	多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえ、精神疾患や障害を持つ対象のニーズをとらえ、精神疾患や障害を持つ対象との関わりを通してこころを病むということを理解し、対象に必要な看護の役割について学び、精神看護の実践能力を身につける。						
学修者への期待等	実習前に精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、看護展開論Ⅲで学修した内容を復習し実習に臨むこと。積極的に対象者とかかわり、自分自身の気づきを通して対象者の理解ができるように努めること。						
授業計画				準備学修			
I. 実習期間：令和7年5月2日（金）～10月31日（金） 1グループ：2週間 II. 実習施設：宮城県精神医療センター、東北会病院、 せんだんホスピタル、青葉病院 訪問看護ステーションこめりな III. 実習目的：精神病院や精神保健医療福祉サービスを利用する対象者とかかわりを通して、こころを病むことを理解し、対象の抱える課題を共有する中で、必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける IV. 実習目標 1. 対象者とかかわりの中で、信頼関係を構築するための看護師－患者関係を考察できる 2. 様々な立場の人とかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、自己理解を深める 3. 対象者を精神的、身体的、社会的な側面から理解し、対象者が抱えている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる 4. こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割を理解する 5. 看護職を目指す者として望ましい姿勢で実習に取り組むことができる V. 実習計画 1. 学内実習 1) 実習全体オリエンテーション 2) 実習施設についての事前学習 3) 実習の振り返りと課題整理 2. 臨地実習 1) 病院実習 (1)患者を受け持ち、プロセスレコードを通して自分自身の対人関係の傾向について考察する (2)患者の全体像をとらえ、患者に必要な援助を考えることができる 2) 地域生活支援実習 (1)対象者の地域生活支援の実際から、地域で生活をしていく上で求められる看護師の役割を理解する				【事前】 ・実習オリエンテーション開始前に実習要項を十分読み参加する（30分程度） ・実習開始前までに、精神保健医療福祉サービスに関する既習の知識を整理しまとめる（3時間程度） ・実習開始前までに、自己理解を深めるためのプロセスレコードを記載し、自分自身の感じ方・捉え方・接し方を考察する（1時間程度） ・実習開始前までに、病院事前オリエンテーションに参加し、学びを記載する（30分程度） ・実習開始前までに、在宅療養支援実習施設の概要をまとめる（30分程度）			
教科書	②『ナースンググラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本』出口 禎子・他編、メディカ出版 ③『ナースング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口 禎子・他編、MCメディカ出版 ④『精神看護学実習ハンドブック』草地仁史・他編、中央法規						
参考文献	『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美・他編、日総研 『精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開』田中美恵子編著、医歯薬出版株式会社						
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 阿部幹佳、加藤真理子 非常勤講師 長橋美榮子、大曽根孝子、高橋あつ子、他1名 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護師(病院等に5年以上勤務)としての資格、経験より、学生が精神障害者と関わり、実習目標が達成できるような環境を整え、教授する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング NS-2-CNP-11				
		●	●	●	●					
科目名	統合実習				単位 認定者	阿部 春美		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	3 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	120 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	看護基礎教育の統合と卒後の応用のために、多様な実践の場で学んだ看護活動及び安全・看護管理の実際など踏まえ、チームの一員として協働して役割遂行できる実践能力を身につける。									
学修者への期待等	本学3年間の総まとめの実習です。これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場に近い体制の実習を通してチームの一員としての役割遂行をめざし、また将来のキャリアを見据えるための一助としていきたいと思います。									
授業計画							準備学修			
I. 実習期間：令和7年11月21日（金）～12月12日（金） II. 実習施設：東北医科薬科大学病院、東北公済病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、JCHO仙台病院、坂総合病院 III. 実習目的：保健・医療・福祉チームにおける看護職能の役割を認識し、看護マネジメント能力を養い、3年間で学修した看護の知識・技術・態度を統合し、看護実践能力を身につける。 IV. 実習目標 1. 複数患者を受け持ち、看護過程を展開するとともに、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理を適切に実施できる。 2. 看護チームのリーダーシップ・メンバーシップを理解し、チームの一員として責任ある行動ができる。 3. 災害対策や医療事故防止など医療現場における危機管理、実習病棟における看護管理について 理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームの中で連携・協働して行われている看護の役割と継続看護について理解できる。 5. 日常生活援助技術や診療の補助技術に関する課題を明らかにし、技術の向上を図ることができる。 6. これまでの学修を振り返り、自己の看護観を深めることができる。 V. 実習計画 1. 学内実習 1) 実習オリエンテーション 2) 夜間帯の看護：模擬事例・模擬場面を用いたシミュレーション演習 3) 統合実習の学びの共有 2. 病院実習 1) 学生5～6名で班を形成し、教員1名が担当 2) 実習指導は実習施設の実習指導者と担当教員が担う 3) 看護チームの中に入り、チームメンバーとして複数の患者を受け持つ 4) 看護チームの計画を反映させた看護実践を行う 5) カンファレンスを適宜行い、実習体験を帰納・演繹的に整理							【事前】 ・実習開始前に実習要項要項を十分読み、参加する（1時間） ・統合実習 事前課題「事故の実習目標等課題」「目指す看護師像」の作成（2時間） ・実習病院の病院組織体制、看護部組織体制に関する学修をする（1時間） ・病棟の診療科に関する学修をする（解剖生理、疾患、検査、治療、看護など）（3時間）			
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	随時紹介する									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 阿部春美、阿部幹佳、岡崎優子、泉田さとみ、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、竹田理恵、東海林美幸、二口尚美、小倉真紀 非常勤講師 松田郷子、大石慶子、畑中晶子、江口美知子 他4名									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護職としての実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びを統合できるよう教授する。

看護学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

看護学科のナンバリングの見方（2023 年度入学生用）

【例】NS-1-〇〇〇-01

NS	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角 [-]	②	半角 [-]	③	半角 [-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2 桁

全学共通教養教育科目：C0

看護学科：NS

②科目レベル

半角数字 1 桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎分野：1

専門分野：2

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3 桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
人体の構造と機能	HAP	Human Anatomy and Physiology
疾病の成り立ちと回復の促進	PRD	Pathogenesis and Recovery of Disease
健康支援と社会保障制度	HSS	Health support and Social Security System
基礎看護学	FNS	Fundamental Nursing
地域・在宅看護論	CHN	Community Health and Home Care Nursing
領域横断看護	INS	Interdisciplinary Nursing
成人看護学	ANS	Adult Nursing
老年看護学	GNS	Gerontological Nursing
小児看護学	CHN	Child Health Nursing
母性看護学	WHN	Women's Health Nursing

精神看護学	PMN	Psychiatric and Mental Health Nursing
看護の統合と実践	NIP	Nursing Integration and Practice
臨地実習	CNP	Clinical Nursing Practicums

④連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	CO-0-HCU-01
			英語	CO-0-HCU-02
			哲学入門	NS-0-HCU-01
	人間と社会		現代の社会	CO-0-HSO-03
			法律入門	CO-0-HSO-04
			生涯学習論	NS-0-HSO-01
			心理学概論	NS-0-HSO-02
			家族社会学	NS-0-HSO-03
	人間と科学		情報処理	CO-0-HSC-01
			自然科学入門	NS-0-HSC-01
			数理リテラシー	NS-0-HSC-02
			健康スポーツ科学	NS-0-HSC-03
専門教育分野	専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	NS-1-HAP-01
			人体構造と機能Ⅱ	NS-1-HAP-02
			人体構造と機能Ⅲ	NS-1-HAP-03
			人体構造と機能Ⅳ	NS-1-HAP-04
			生化学	NS-1-HAP-05
			微生物学	NS-1-HAP-06
			栄養学	NS-1-HAP-07
			病理学	NS-1-PRD-01
			病態治療学Ⅰ（検査・治療）	NS-1-PRD-02

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学Ⅱ（循環器）	病態治療学Ⅱ（循環器）	NS-1-PRD-03
			病態治療学Ⅲ（消化器）	NS-1-PRD-04
			病態治療学Ⅳ（内分泌、泌尿・生殖器）	NS-1-PRD-05
			病態治療学Ⅴ（運動器、中枢・末梢神経）	NS-1-PRD-06
			病態治療学Ⅵ（血液・造血器・免疫）	NS-1-PRD-07
			病態治療学Ⅶ（呼吸器、感覚器）	NS-1-PRD-08
			看護薬理学	NS-1-PRD-09
		健康支援と社会保障制度	生命科学と医療倫理	NS-1-HSS-01
			人間関係論	NS-1-HSS-02
			保健行動学	NS-1-HSS-03
			公衆衛生学	NS-1-HSS-04
			保健医療福祉サービス論	NS-1-HSS-05
			チーム医療論	NS-1-HSS-06
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	NS-2-FNS-01
			看護倫理	NS-2-FNS-02
			基礎看護技術Ⅰ	NS-2-FNS-03
			基礎看護技術Ⅱ	NS-2-FNS-04
			基礎看護技術Ⅲ	NS-2-FNS-05
			基礎看護技術Ⅳ	NS-2-FNS-06
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	NS-2-CHN-01
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	NS-2-CHN-02
			地域・在宅看護概論Ⅱ	NS-2-CHN-03
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	NS-2-CHN-04
		領域横断看護	看護展開論Ⅰ	NS-2-INS-01
			看護展開論Ⅱ	NS-2-INS-02
			看護展開論Ⅲ	NS-2-INS-03
			健康状態別看護Ⅰ	NS-2-INS-04
			健康状態別看護Ⅱ	NS-2-INS-05
			健康状態別看護Ⅲ	NS-2-INS-06
		成人看護学	成人看護学概論	NS-2-ANS-01
			成人看護学援助論Ⅰ	NS-2-ANS-02
			成人看護学援助論Ⅱ	NS-2-ANS-03
		老年看護学	老年看護学概論	NS-2-GNS-01
			老年看護学援助論Ⅰ	NS-2-GNS-02

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
		小児看護学	老年看護学援助論Ⅱ	NS-2-GNS-03
			小児看護学概論	NS-2-CHN-01
			小児看護学援助論Ⅰ	NS-2-CHN-02
		母性看護学	小児看護学援助論Ⅱ	NS-2-CHN-03
			母性看護学概論	NS-2-WHN-01
			母性看護学援助論Ⅰ	NS-2-WHN-02
		精神看護学	母性看護学援助論Ⅱ	NS-2-WHN-03
			精神看護学概論	NS-2-PMN-01
			精神看護学援助論Ⅰ	NS-2-PMN-02
		看護の統合と実践	精神看護学援助論Ⅱ	NS-2-PMN-03
			医療安全管理論	NS-2-NIP-01
			災害看護	NS-2-NIP-02
			看護管理論・国際看護	NS-2-NIP-03
			看護研究Ⅰ	NS-2-NIP-04
		臨地実習	看護研究Ⅱ	NS-2-NIP-05
			基礎看護学実習Ⅰ	NS-2-CNP-01
			基礎看護学実習Ⅱ	NS-2-CNP-02
			地域・在宅看護論実習Ⅰ	NS-2-CNP-03
			地域・在宅看護論実習Ⅱ	NS-2-CNP-04
			領域横断看護実習	NS-2-CNP-05
			成人看護学実習	NS-2-CNP-06
			老年看護学実習	NS-2-CNP-07
			小児看護学実習	NS-2-CNP-08
			母性看護学実習	NS-2-CNP-09
			精神看護学実習	NS-2-CNP-10
			統合実習	NS-2-CNP-11

	氏名	E-mail
1	あべ はるみ 阿部 春美	h_abe@seiyogakuin.ac.jp
2	あべ みきか 阿部 幹佳	mk_abe@seiyogakuin.ac.jp
3	いずみだ さとみ 泉田 さとみ	s_izumida@seiyogakuin.ac.jp
4	いとう まりこ 伊藤 茉莉子	ma_itou@seiyogakuin.ac.jp
5	いわま まきのり 岩間 正典	m_iwama@seiyogakuin.ac.jp
6	えんどう みほこ 遠藤 美穂子	m_endou@seiyogakuin.ac.jp
7	おかざき そよか 岡崎 草代夏	s_okazaki@seiyogakuin.ac.jp
8	おかざき ゆうこ 岡崎 優子	y_okazaki@seiyogakuin.ac.jp
9	おぐら まき 小倉 真紀	m_ogura@seiyogakuin.ac.jp
10	かとう まりこ 加藤 真理子	m_kato@seiyogakuin.ac.jp
11	きのした みさ子 木下 美佐子	m_kinoshita@seiyogakuin.ac.jp
12	くわた えみこ 桑田 恵美子	e_kuwata@seiyogakuin.ac.jp
13	こばやし あつこ 小林 淳子	a_kobayashi@seiyogakuin.ac.jp
14	さいとう みか 齋藤 美華	m_saito@seiyogakuin.ac.jp
15	さかむら さち 坂村 佐知	s_sakamura@seiyogakuin.ac.jp
16	さとう きよこ 佐藤 清湖	k_satou@seiyogakuin.ac.jp
17	さとう ふみこ 佐藤 富美子	f_satou@seiyogakuin.ac.jp
18	さとう ゆきこ 佐藤 幸子	yu_sato@seiyogakuin.ac.jp
19	さとう ゆきこ 佐藤 由記子	yk_satou@seiyogakuin.ac.jp
20	さとう りえ 佐藤 理恵	r_satou@seiyogakuin.ac.jp
21	すえなが こ 末永 カツ子	k_suenaga@seiyogakuin.ac.jp
22	すがわら なおみ 菅原 尚美	n_sugawara@seiyogakuin.ac.jp
23	たかはし ゆみ 高橋 由美	y_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
24	たけだ みなこ 武田 美奈子	m_takeda@seiyogakuin.ac.jp
25	たけだ りえ 竹田 理恵	r_takeda@seiyogakuin.ac.jp
26	たなべ けいこ 田辺 圭子	k_tanabe@seiyogakuin.ac.jp
27	たばやし こういち 田林 暁一	k_tabayashi@seiyogakuin.ac.jp
28	てづか ゆきこ 手塚 有希子	y_teduka@seiyogakuin.ac.jp
29	とうかいりん みゆき 東海林 美幸	m_toukairin@seiyogakuin.ac.jp
30	ふたくち ひさみ 二口 尚美	h_futakuchi@seiyogakuin.ac.jp
31	まさめ けん 真覚 健	k_masame@seiyogakuin.ac.jp
32	またに じゅんこ 真溪 淳子	j_matani@seiyogakuin.ac.jp

看護学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
看護管理論・国際看護	1	阿部春美	病院看護管理者、認定看護管理者、医療安全管理者の経験を生かして、看護のしくみを理解できるように教授する。
看護研究Ⅱ	1	小林淳子	保健師（自治体等に5年以上勤務）としての実務経験を生かし、看護実践に基づくケースレポート作成について理解が深められるよう教授する。
地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	高橋由美	看護師（病院等に5年以上勤務）として、さらに地域・在宅看護の実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びの統合を支援する。
成人看護学実習	3	阿部春美	成人領域の臨床経験のある教員が実習を担当する。手術または急性期にある成人とその家族の特徴を理解させ、個別的状況に応じた健康回復に必要な看護を教授する。
老年看護学実習	3	桑田恵美子	看護師として高齢者看護の実務経験をもとに、高齢者とその家族に対して老年看護の役割について理解が深められるよう指導する。
小児看護学実習	2	武田美奈子	この授業は、学修した小児看護の知識・技術・態度を実際に対象に合わせ実践する科目である。そのため看護師として小児看護領域の臨床実務経験を活かし、実践に即した内容を教授する。
母性看護学実習	2	佐藤理恵	助産師（病院等5年以上勤務）としての実務経験を生かし、学修した母性看護の知識・技術を実践できるよう教授する。
精神看護学実習	2	阿部幹佳	看護師（病院等に5年以上勤務）としての資格、経験より、学生が精神障害者と関わり、実習目標が達成できるような環境を整え、教授する。
統合実習	3	阿部春美	看護職としての実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びを統合できるよう教授する。
	19	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	

2025（令和7）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。